

2 級電気工事施工管理技術検定試験過去問題集 2026 年版 正誤表

ISBN コード：978-4-485-22064-1

発行日：2026 年 2 月 26 日

作成日：2026 年 5 月 15 日

箇所	誤	正
23 ページ 【No.14】 問題文	架空送電線路に取り付けるダンパの目的として、最も不適当なものはどれか。	架空送電線路に取り付けるダンパの目的として、最も適当なものはどれか。
199 ページ 【No.18】 選択肢 4	4. 長幹がいしやスモッグがいしを採用する。	4. 直接接地方式を採用する。
199 ページ 【No.19】 選択肢 4	4. 直接接地方式を採用する。	4. 長幹がいしやスモッグがいしを採用する。
446 ページ 【No.35】 解説	サードレールは第三軸条ともいい、電車に電力を供給するための導電用のレールで、電気車両の集電靴によって接触集電し、走行レールを帰路として電力を変電所へ戻す方式である。したがって、3 が最も不適当なものである。 答 3	送電用鉄塔の既製杭工法としては、打ち込み工法、圧入工法などが採用される。 セミシールド工法、刃口推進工法は下水道管きよなどの構築に採用される推進工法、アースドリル工法は場所打ち杭の工法である。したがって、4 が適当なものである。 答 4
446 ページ 【No.36】 解説	鉄道に関する技術上の基準を定める省令の解釈基準Ⅲ-1 (第12条 (軌間) 関係) (2)において、(2) 新幹線の軌間は、1.435 m とすると定められている。ちなみに 1.435 m を標準軌 (JIS E 1001) という。したがって、4 が適当なものである。 答 3	サードレールは第三軸条ともいい、電車に電力を供給するための導電用のレールで、電気車両の集電靴によって接触集電し、走行レールを帰路として電力を変電所へ戻す方式である。したがって、3 が最も不適当なものである。 答 3